

日本電子出版協会 第39回通常総会

【議題】

議題 1 2023 年度事業報告および収支決算案承認の件

議題 2 2024 年度事業計画案および収支予算案承認の件

議題 3 2024 年度理事、監事選任の件

報告事項

・役員承認の件

・委員会委員長委嘱の件

2023 年度事業報告書案および 2024 年度事業計画案

1. 会員の概況

2024 年 2 月 15 日における会員社総数は法人 100 社、特別会員 10 社、特別個人会員 10 名です。

2. 事業の概況および成果

1) 一般社団法人日本電子出版協会（JEPA）は、日本の電子出版を普及・発展させることを目的として設立されました。出版社、電気メーカー、ソフトハウス、印刷会社など幅広い業界から会員社が参加して活動を行っています。

当協会の活動は、各種委員会が中心となっており、電子出版発展のための研究、セミナー開催、技術仕様の標準化、業界への提言、会員間の情報交換やビジネス促進などを行っています。現在の主な委員会として、定例会運営委員会、広報委員会、プラットフォーム委員会、著作権委員会、ビジネス研究委員会、レファレンス委員会、電子図書館委員会があり、積極的に活動しています。

委員会へは、会員社であれば誰でも参加することができ、それぞれの業務や関心領域に合わせて選択可能です。現在活動している 7 つの専門委員会は次のように活動しています。

①定例会運営委員会：タイムリーなテーマで定例会セミナーの企画・開催を中心に会員に情報獲得機会を提供しています。

②広報委員会：JEPA の活動や電子出版の普及について内外に伝えています。

③プラットフォーム委員会：各種プラットフォームの調査・紹介のほか、文字セット、電子教科書、eラーニングなどの課題について外部団体と連携して研究を行っています。

④著作権委員会：電子出版に関わる著作権の研究と関連知識の普及を図っています。

⑤ビジネス研究委員会：電子出版に関わる技術・情報の幅広い収集やその交換等を通して、電子出版ビジネスの効率的な推進方法を研究しています。

⑥レファレンス委員会：辞書およびレファレンス資料の電子化の標準化などを研究しています。

⑦電子図書館委員会：電子図書館の仕組みや運営方法を出版ビジネスとの関わり視点から検討しています。小中学校を対象にした「デジタル学校図書館」を提案しています。

2) 2023 年の出版市場は、新型コロナウイルスに影響による巣ごもり需要が落ち着いて、紙＋電子出版で前年より 2.1%減となっています。電子出版市場は、前年比 6.7%増、紙は 6.0%減となっています。電子出版市場では、電子コミックが 7.8%増なのに対して、電子書籍は 1.3%減となっています。また、教育関連では GIGA スクールの展開などによって、引き続き ICT 化を中心にさまざまな動きが活発化しています。

3) 2023 年度は、新型コロナウイルスが 5 類へ移行し、行動の自由は広がったものの、コロナ下で普及したデジタル化が定着し、セミナーや委員会などをオンラインで開催する方針を継続しました。詳しくは各委員会の活動報告に示します。オンライン開催によりセミナーの開催回数、参加者数とも順調に推移しています。生成 AI への関心が高まったことも、当会のセミナーが注目される要因となりました。年間に開催したセミナーは 33 回、参加登録者はコロナ前の 2019 年に比べて約 4 倍の 11,000 名以上にのぼりました。また、セミナーの多くは YouTube の日本電子出版協会チャンネルにアーカイブしており、2023 年中に 80 本に達し多くの人に視聴されています。

3. 2024 年の活動計画

2023 年度は、オンラインセミナーの開催、理事会・委員会のオンラインでの実施などが定着し、新しい運営スタイルを確立しました。セミナーはリアルタイムだけでなくアーカイブでも再生されています。また、JEPA サイトで 2022 年度に改訂された EbookPedia も多く閲覧されています。

これらは JEPA の認知度の向上のみならず、電子出版業界への貢献にも寄与していると考えます。ゼミ形式による会員限定セミナーも定着しました。2024 年度も引き続きこれらのオンラインの利点を生かした活動を継続して行きます。また、各委員会の活動内容の周知等により、委員会への参加意欲を促進するとともに、委員会や会員間のコミュニケーションの活性化を図ります。さらに業界の要請に沿った新たな活動についても検討します。上述の活動を通じて JEPA の活動に対する既存の会員社のご理解を得、さらに新規入会へのインセンティブを提示することを目指します。

4. 2023 年度 各専門委員会活動報告 と 2024 年度活動計画 （別紙）

(別紙) 2023 年度 各専門委員会活動報告と 2024 年度計画案

※各専門委員会の報告と活動計画についてはのちほどまとめて説明します。

定例会運営委員会 2023 年度活動報告

古橋委員長

定例会運営委員会では、2023 年度計 24 回のオンラインセミナーを実施しました。(参考:2020 年 13 回、2021 年 23 回、2022 年 24 回)。内、会員社メリット創出を目的とした会員社セミナーは 5 回開催しました。完全オンラインによるセミナー開催は 3 年目を迎え、1 回あたりの参加者数は順調に増加しています。特に今期は chatGPT 元年の影響を受け、関連テーマセミナーを中心に、大きく伸びた結果となりました。

セミナー当日の参加者数は、1 回あたり平均約 200 名(昨年平均約 150 名)、多い回で約 800 名(昨年最大約 300 名)となっています。また後日視聴が可能なアーカイブされたセミナー動画の視聴回数は特に伸び、5600 回以上視聴された回もありました(昨年最大約 1800 名)。

委員会は幅広いテーマでのセミナー開催に価値を置き活動していますが、多くの方にご参加いただいたという観点においては、国立国会図書館動向など他で聞くことのできない専門性の高い話題、chatGPT・生成AIなどタイムリーなキーワードが含まれたもの、電子出版・コンテンツ流通の動向・展望などのテーマは高い関心が伺えました。状況詳細は下に記載しました。

現在、JEPA の YouTube チャンネルには 80 本以上の動画が蓄積され、1370 人のチャンネル登録者も含め、JEPA の資産となっています。(参考:昨年時、動画 60 本・登録者 850 人)

セミナーを一般公開することで JEPA の認知度向上に貢献している一方、会員社のメリット創出が継続検討課題であり、会員社セミナー開催等、引き続き推進してまいります。

●当日参加者数ランキング

* 2024/1/22時点

	タイトル	申込数	当日参加数	Youtube視聴数
1	ChatGPT時代のAI講座	1000	790	5662
2	ChatGPTと本の未来	909	600	4384
3	国立国会図書館デジタルコレクションのリニューアル	580	360	1913
4	ChatGPT はどんな仕事の何に役に立つのか?	596	330	3028
5	ChatGPTはもう古い! ー デジタル時代の終焉と未来	540	320	2290
6	生成AIとメディアの現在、未来	503	300	1528
7	コミチ 小学館、秋田書店など漫画雑誌のオンライン配信	328	250	743
8	新春講演会「2023年の電子出版はどうなる?」	353	245	736
9	W3C標準「EPUB 3.3」 とアクセシビリティ対応	331	230	767
10	電子出版プラットフォームの未来像 ー 「IPファースト」「AI時代」の展望	354	199	725

●YouTube視聴回数ランキング

	タイトル	申込数	当日参加数	Youtube視聴数
1	ChatGPT時代のAI講座	1000	790	5662
2	ChatGPTと本の未来	909	600	4384
3	ChatGPT はどんな仕事の何に役に立つのか?	596	330	3028
4	ChatGPTはもう古い! ー デジタル時代の終焉と未来	540	320	2290
5	国立国会図書館デジタルコレクションのリニューアル	580	360	1913
6	生成AIとメディアの現在、未来	503	300	1528
7	『DC3』で実現する、Web3時代のデジタルコンテンツ流通	147	111	1088
8	W3C標準「EPUB 3.3」 とアクセシビリティ対応	331	230	767
9	コミチ 小学館、秋田書店など漫画雑誌のオンライン配信	328	250	743
10	新春講演会「2023年の電子出版はどうなる?」	353	245	736

●セミナー実績

※YoutubeLive のカッコ内数字は 2024 年 1 月 22 日時点での視聴回数

- 2023/1/11 **新春講演会「2023 年の電子出版はどうなる？」**
・講師：鷹野 凌 氏 (HON.jp News Blog 編集長)
・申込数：353、参加者数：YoutubeLive 180 (736)、Zoom 65
- 2023/1/25 **【会員社】オープンバッジが拓く 教育・人材活用の革命**
・講師：岸田徹 氏 (株式会社ネットラーニングホールディングス 代表取締役)
・申込数：114、参加者数：YoutubeLive50 (693)、Zoom20
- 2023/2/22 **『DC3』で実現する、Web3 時代のデジタルコンテンツ流通
—デジタルコンテンツを唯一無二の “モノ “ に—**
・講師：高橋雅道 氏 (株式会社&DC3 代表取締役社長)
・申込数：147、参加者数：YoutubeLive90 (1088)、Zoom21
- 2023/2/28 **国立国会図書館デジタルコレクションのリニューアル**
・講師：岡本常将氏 (国立国会図書館関西館 電子図書館課)
・申込数：580、参加者数：YoutubeLive270 (1913)、Zoom90
- 2023/3/14 **【会員社】古い雑誌を誰でも閲覧——NDL デジタルコレクションをユーザ目線で**
・講師：下川和男氏 (イースト株式会社 相談役)
・申込数：287、参加者数：YoutubeLive115 (725)、Zoom38
- 2023/3/29 **CES2023 から見えた 2023 年のテックトレンド
地球規模の人類の問題解決も一大ミッションに**
・講師：清水計宏氏
・申込数：126、参加者数：YoutubeLive26 (-)、Zoom42
- 2023/4/6 **電子出版プラットフォームの未来像 —— 「IP ファースト」「AI 時代」の展望**
・講師：堀鉄彦氏 (株式会社コンテンツジャパン代表取締役)
・申込数：354、参加者数：YoutubeLive146 (726)、Zoom53
- 2023/4/10 **アクセシブル・ブックス・サポートセンター(ABSC)設立に向けて 2023**
・講師：落合早苗氏 (O2O Book Biz 株式会社代表取締役, ABSC 準備会 座長代行)
・申込数：210、参加者数：YoutubeLive100 (503)、Zoom40
- 2023/4/18 **ChatGPT 時代の AI 講座**
・講師：野村直之氏 (メタデータ株式会社 代表取締役社長)
・申込数：1000、参加者数：YoutubeLive690 (5,662)、Zoom100
- 2023/5/22 **ChatGPT と本の未来**
・講師：橋本大也 氏 (デジタルハリウッド大学教授・メディアライブラリー館長)
・申込数：909、参加者数：YoutubeLive500 (4,384)、Zoom100
- 2023/6/14 **ChatGPT はもう古い! ——デジタル時代の終焉と未来**
・講師：服部桂氏
・申込数：540、参加者数：YoutubeLive237 (2,290)、Zoom83
- 2023/6/23 **【APL 共催】 W3C とは? ——その誕生から新しい体制まで**
・講師：Florian Rivoal 氏 (W3C AB メンバー、APL 国際化 WG リーダー)
・申込数：130、参加者数：YoutubeLive50 (344)、Zoom32

- 2023/7/12 **【APL 共催】 W3C 標準「EPUB 3.3」 とアクセシビリティ対応**
 ・講師：高見真也氏（株式会社 KADOKAWA）
 ・申込数：331、参加者数：YoutubeLive170（767）、Zoom60
- 2023/7/21 **中国出版業界最新事情 2023——第 29 回北京ブックフェア概況報告を兼ねて**
 ・講師：馬場公彦氏（北京外国語大学日本語学院 北京日本学研究センター准教授）
 ・申込数：230、参加者数：YoutubeLive100（381）、Zoom36
- 2023/7/31 **始めませんか? アクセシブルな電子図書館の開発と導入
 ——「電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン 1.0」概要**
 ・講師：植村要氏（国立国会図書館 総務部企画課）
 ・申込数：221、参加者数：YoutubeLive90（619）、Zoom30
- 2023/8/29 **小学館グループが取り組む中等教育戦略
 ——ジャパンナレッジ School と AI 型教材 Qubena**
 ・講師：堀野修平氏（株式会社ネットアドバンス）
 / 木川俊哉氏（株式会社 COMPASS 取締役 CLO）
 ・申込数：288、参加者数：YoutubeLive130（679）、Zoom50
- 2023/9/19 **生成 AI とメディアの現在、未来**
 ・講師：藤村厚夫氏
 ・申込数：503、参加者数：YoutubeLive230（1,528）、Zoom70
- 2023/10/17 **マイクロソフトの生成 AI: ChatGPT はどんな仕事の何に役に立つのか?**
 ・講師：畠山大有氏（日本マイクロソフト株式会社）
 ・申込数：596、参加者数：YoutubeLive240（3,028）、Zoom90
- 2023/11/1 **【会員社】メディアドゥ:NFT を活用した新たな読書体験と流通モデル
 ～NFT デジタル特典付き出版物の今までとこれから～**
 ・講師：鈴木元氏、佐々木章子氏（株式会社メディアドゥ）
 ・申込数：289、参加者数：YoutubeLive120(458)、Zoom45
- 2023/11/7 **【会員社】アドビの生成 AI: 想像性を解き放つ Adobe Firefly のご紹介と Adobe Stock
 をあわせた効率的な活用**
 ・講師：加藤修一氏、川島修治氏（アドビ株式会社）
 ・申込数：286、参加者数：YoutubeLive137（-）、Zoom53
- 2023/11/21 **【XSPA 共催】科学技術振興機構(JST): 日本の学術論文出版
 ——J-STAGE 及び Jxiv を通して**
 ・講師：久保田壮一氏（科学技術振興機構）
 ・申込数：148、参加者数：YoutubeLive57（250）、Zoom30
- 2023/11/24 **【会員社】直取引出版社の挑戦 ～ディスカヴァーが切り拓く電子書籍の新時代～**
 ・講師：小関勝則氏（株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン）
 ・申込数：197、参加者数：YoutubeLive90（447）、Zoom20
- 2023/11/27 **コミチ: 小学館・秋田書店が選んだ Web マンガ誌の泥臭い運用**
 ・講師：萬田大作氏（株式会社コミチ）
 ・申込数：328、参加者数：YoutubeLive190（743）、Zoom60
- 2023/12/8 **米国出版動向**
 ・講師：大原ケイ氏
 ・申込数：277、参加者数：YoutubeLive110（397）、Zoom35

定例会運営委員会 2024 年度活動計画

次年度につきましても、「最新市場動向やタイムリーな情報を業界を超えて収集し、会員に有益なテーマを探索する」という定例会運営委員会の基本的な考え方を踏襲してまいります。セミナーの開催方法は、引き続きオンラインをベースとして、これまで培われてきた JEPA のネットワークやセミナー運営の知見を引き継ぎつつ、以下の方針で運営していきます。

1. 会員の関心が高い分野を基本としつつ、電子出版がビジネスとして実業フェーズとなってきたことを踏まえ、技術的テーマ、教育関係、販売・マーケティング、コンテンツ関連、デザイン関連とうとうの電子出版に関わる各ジャンルや、専門性、一般性、トレンド、基礎等のバランスなどを意識したテーマ設定、講師選定を行う。
2. 講師による講演を基本としながらも、講演後のオンライン交流会をはじめ、テーマに応じて柔軟な形式を検討、設定し、参加者間の交流を図る。
3. JEPA セミナーのさらなる活性化、認知度のさらなる向上を企図した開催回数増、また会員社のメリット感の向上などを目的として、会員社に講師として参加いただくセミナーを積極的に企画する。

2024 年度についても、当面はこれまで通り参加費は無料とし、オンラインセミナー＋講師との交流会およびアーカイブ動画の一般公開という形を予定していますが、並行して、会員社／非会員社の納得性やセミナーの財政的な安定運営、質の維持のための手法についても、引き続き検討・試行を継続していきたいと思っております。

なお、定例会セミナーで取り上げるテーマや講師の方につきましては、引き続き会員各社からのリクエストを歓迎しております。ご要望をお寄せいただければ検討させていただきますので、ぜひ、事務局あてにご連絡ください。また、セミナーを企画・運営する定例会委員も併せて募集しております。理事社以外の会員社も含めて、ご参加をお待ちしております。

定例会運営委員会

委員長	古橋 明子	旺文社
委員	沼田 久美	医書ジャーピー
委員	井野口 正之	特別個人会員
委員	山口 隆志	大修館書店
委員	下川 和男	イースト
委員	清水 隆	事務局長

2023年度総括と2024年度方針

① 2023 年度総括

1) JEPA 会員間のコミュニケーション増につながる活動

- ①委員会入会促進キャンペーンの実施
- ②各委員会の紹介記事・動画の製作
- ③オンラインでの会員各社の紹介セッション「JAPA 大会議」の実施

【結果】②の「委員会に入ろう!」委員会インタビューは3回実施

- ・ビジネス研究委員会/定例会委員会/著作権委員会
- ・想定以上に手間がかかるため②の実施で手一杯で終わる

2) JEPA サイトのアクセス増につながる施策の検討・実施

- ・上記と連携した HP 施策等
- ・その他 アクセス増につながる施策

【結果】HP のマイナー修正に留まる

- ・電子出版アワード関連 バナー設置等
- ・学校デジタル図書館記事修正

JEPA サイトアクセス状況

2023 年通期

ユーザー数 9.2 万人(前年比+52% : アナリティクス GA4 移行で不正確)

セッション数 12.5 万回(前年比+44% : 不正確)

JEPA Youtube チャンネル状況

動画数 83 本累計 (2023 年 24 本)

チャンネル登録数 1370 人

3) JEPA 電子出版アワード 2023 の実施運営・投票

- 受賞式は、ZOOM+Youtube にて実施。大賞は、スプリュームの YourEyes。Youtube 視聴数 497 回(2024/01/23 現在 : 2022 年 689 回)

② 2024 年度広報委員会活動方針（検討中）

1) JEP A 会員の間でのコミュニケーション増につながる活動

- ・「委員会に入ろう!」委員会インタビュー継続
電子図書館委員会、レファレンス委員会、広報委員会
- ・オンラインでの会員各社の紹介セッション「JEP A 大会議」の実施（検討中）

2) JEP A サイトのアクセス増につながる施策の検討・実施

- ・上記と連携した HP 施策等
- ・その他 アクセス増につながる施策

3) JEP A 電子出版アワード 2024 の実施運営・投票

JEPA プラットフォーム委員会 2023 年度報告

委員長 下川和男

- セミナー関連 Youtube アーカイブ合計 81 本、登録ユーザ 1360 名（昨年は 845 名）
学術情報 XML 推進協議会（XSPA）との連続セミナーを行えたのは、大きな収穫となった。
学術論文系のデジタル化動向を、アーカイブすることができた。
- ICT CONNECT 21（略称 ICON、JEPA として参加）
 - ・文科省、デジタル庁と連携し、MEXCBT、学習 e ポータルなど様々な事業を推進
 - ・GIGA スクールの旗振り役
- JOTEA 日本オンライン教育産業協会(JEPA から監事として参加)
 - ・eLearning Awards Forum 11/01～ <https://www.elearningawards.jp/> @ソラシテイ
- 日本 IMS 協会（JEPA 提携団体）⇒ 1EdTech の団体名を変更した。
 - ・毎月 1 回、運営委員会を開催 <http://imsjapan.org/>
 - ・GIGA スクール構想と関連し、QTI(CBT、共通テスト)、LTI(アプリ連携)、OneRoster など
- Advanced Publishing Laboratory (APL)（JEPA 提携団体）
 - ・慶應 SFC+ 講談社/小学館/集英社/KADOKAWA/メディアドゥ
 - ・元 Apple 木田さん：JLreq-d：日本語組版の要件デジタル版セミナー開催
- AI データ活用コンソーシアム(JEPA は発起人/理事。そして協働団体)
 - ・事務局長の MS 田丸さん(JEPA 理事)がデジタル庁「ガバメントソリューション統括」に就任
 - ・会長の長尾真先生逝去に伴い、新会長は坂村健先生。
- 文字情報処理技術協議会(JEPA の提携団体)
 - ・MJ(文字情報基盤)明朝を IPA(情報処理推進機構)から移管された。デジタル庁とも関連。

JEPA プラットフォーム委員会 2024 年度計画

委員長 下川和男

- セミナー予定
昨年度同様、年間 20 本ほどを計画。 昨年、XSPA と 5 回の共催セミナーを開催したので、今年も日本デジターコンソーシアム、APL、などとの共催セミナーを開催予定。
- ICT CONNECT 21
 - ・活発に動いているので、「デジタル図書館」以外についても、JEPA の出番を探りたい。
- JOTEA 日本オンライン教育産業協会
 - ・今年度も 10 月にオンラインラーニングフォーラムを 開催予定 JEPA 会長賞
- Advanced Publishing Laboratory (APL)
 - ・EPUB 3.3 が登場するので、「電書協ガイドの改訂」など、その定着を推進したい。
- 文字情報処理技術協議会
 - ・ガバメント・クラウド（中央官庁+地方自治体）の「戸籍」と「住民基本台帳」のみならず様々な行政サービスで MJ+(文字情報基盤の 7 万文字への拡張)が使われるので、動きが出てくる。
- 日本デジターコンソーシアム (JDC、提携団体)
 - ・書協 ABSC（アクセシブルブック・サポートセンター）や文科省 GIGA スクールなどでアクセシビリティの議論が活発になっており、JDC との連携も深めたい。

以上

■■■2023年 著作権委員会活動報告

委員長 清水 隆

■2023年度開催のセミナー

●JEPA 著作権セミナー

- ・講師：山崎貴啓弁護士（松田山崎法律事務所）
- ・5月19日（金）、改正著作権法の施行（6月1日）を前に図書館等公衆送信サービスの改正を解説
- ・登録：325名、接続：Zoom51、YouTube120

●JEPA・eBP 共催「著作権入門セミナー」

- ・講師：村瀬拓男弁護士
- ・6月20日 第1回「近時の法改正と著作権をめぐるトピックス」
- ・登録：549名、接続：Zoom100、YouTube260
- ・6月27日 第2回 著作権制度の基礎 「著作者、著作権、著作物をしっかり理解しよう」
- ・登録：513名、接続：Zoom85、YouTube230
- ・7月4日 第3回 著作権制度の基礎 「権利の内容（支分権）、権利制限規定」
- ・登録：518名、接続：Zoom90、YouTube210

●著作権実務セミナー

- ・講師：池村聡弁護士
- ・9月27日（水）16時～
- ・生成AI時代における出版・編集実務と著作権
- ・登録：537名、YouTube 270名、Zoom 82名

●JEPA 著作権セミナー

- ・日時：2024年1月19日（金）16:00～17:30 オンライン（動画アーカイブも公開中）
- ・松田弁護士「マイクロソフト事件からChatGPT……その後」
- ・山崎弁護士「AIと著作権をめぐる議論の現在」
- ・登録439名、YouTube175名、Zoom75名

■■■2024年度 著作権委員会活動計画

次のセミナーを継続して企画し年間を通して開催する。

- ・村瀬弁護士による「著作権入門セミナー（eBP 共催）」
- ・池村弁護士による「著作権実務セミナー」
- ・松田・山崎弁護士による「JEPA 著作権セミナー」

◎著作権委員会委員：横山（旺文社）、田岡（翔泳社）、森（自由国民社）、関戸（研究社）、鈴木（イースト）、堀鉄彦（個人会員）、三瓶（JEPA）、清水（JEPA）

ビジネス研究委員会 2023 年度事業報告案

委員長 岡山将也

■ 2023 年度当初のビジネス研究委員会メンバー構成

委員長	岡山将也	日立コンサルティング	副委員長	山本幸太郎	想隆社
副委員長	勝野成基	セットアップ	副委員長	太田智徳	ユニフォンプレスインターナショナル
委員	小島正彌	ダイナコムウェア	委員	辻本英二	デジタルタグボート
委員	佐野悠介	コスモピア	委員	小菅山智子	日販テクシード
委員	天谷修身	アスク出版	委員	藤城稔久	ハイテクノロジーエクスプローラー
委員	阿部絵美麻	ブックスキャン	委員	今里美幸	実教出版
委員	神宮司信也	特別個人会員			
委員	三瓶 徹	顧問	委員	清水 隆	事務局長

- ※ 3月に実教出版の今里さんが退職のためビジ研を卒業。その後、7月にご逝去。ご冥福をお祈りいたします。
- ※ 6月に特別個人会員の神宮司さんが広報委員会に特化したとこのことでビジ研を卒業。
- ※ 7月にブックスキャン（マックス総合法律事務所）の阿部さんが顧問解除ということでビジ研を卒業。
- ※ 10月から新メンバーとして、日販テクシードの小菅山さんがビジ研に参加。

■ 2023 年度（2023 年 1 月～12 月）活動報告

- インキュベーションを担う委員会として、参加者が議論しながら、新しいアイデアを模索する場として、新しいビジネスサービス展開に結び付けられるテーマ別のワークショップで茶話会を開催（7月と11月）。
- 5月には、産総研の柏センター（人間拡張研究センター）を見学（電子図書館委員会連携）。人間拡張研究センター研究紹介、ロボット介護支援機器（生活機能ロボティクス）、大規模 AI クラウド計算システム ABCI 2.0 等の紹介を受け、実際の介護機器、AI システムの見学を実施した。
- 2023 年のワークショップのテーマは、2022 年度から引継ぎ、「アクセシビリティ」、「環境と出版」、「NFT と著作権」、「教育に必要な画像／映像コンテンツの権利処理」、「民間におけるデータの権利処理」など、JEP A 会員社が必要な IT や DX に関する新しい技術、欧米で流行っているネタを想定。できるだけ JEP A 会員社に利益があるネタを展開することを目標に実施。3 月～6 月までは 7 月の茶話会ゼミ、8 月～10 月までは 11 月の茶話会ゼミの企画会議を実施した。茶話会ゼミは、JEP A 会員社限定。
- 7 月の茶話会ゼミでは、生成 AI に着目し、ChatGPT を利用した問題作成やイラストの生成などについて実務で導入している版元の試行錯誤について、コスモピアの事例を茶話会ゼミとしてのテーマに選定し、「ChatGPT を利用した出版社での活用事例」のタイトルで、ビジ研メンバーでもあるコスモピアの佐野さんを講師に迎え、問題作成やイラストの生成などについて実務で導入している版元の試行錯誤について講義を実施した。その後、質疑応答をいただき、参加型でテーマについて、ディスカッションを実施した。
- 11 月の茶話会ゼミでは、教科書のアクセシビリティに着目し、『「教科書に合わせる」から「教科書を合わせる」へ』のタイトルで、光村図書出版の大関さんを講師に迎え、デジタル教科書の制度の現状、デジタル教科書のアクセシビリティ機能、学校現場での活用例、などの話題を提起し、デジタル教科書が実現する個別最適な学びについて講義を実施した。様々な立場から質疑応答をいただき、参加型でテーマについてディスカッションを実施した。

ビジネス研究委員会 2024 年度事業計画案

■ 2024 年度 ビジネス研究委員会メンバー構成

委員長	岡山将也	日立コンサルティング	副委員長	山本幸太郎	想隆社
副委員長	勝野成基	セットアップ	副委員長	太田智徳	ユニフォンプレスインターナショナル
委員	小島正彌	ダイナコムウェア	委員	辻本英二	デジタルタグポート
委員	佐野悠介	コスモピア	委員	小菅山智子	日販テクシード
委員	天谷修身	アスク出版	委員	藤城稔久	ハイテクノロジーエクスプローラー
委員	三瓶 徹	顧問	委員	清水 隆	事務局長

★ 新規メンバー募集中

■ 2024 年度企画検討（事業計画案）

茶話会ゼミのテーマは、引継ぎ、「アクセシビリティ」をメインテーマに進めているが、JEPA 会員社が必要な IT や DX に関する新しい技術、欧米で流行っているネタも継続検討中。JEPA 会員社に利益があるネタ、会員社間の情報交換の場として展開していきたいと思っている。その他、リクエストは随時募集中。委員メンバーも募集中。

● 茶話会企画（茶話会ゼミは継続実施）

今後も参加者が議論しながら、新しいアイデアを模索する場として、新しいビジネスサービス展開に結び付けられるテーマ別のワークショップで茶話会を開催予定；2024 年 6 月、9 月、12 月に開催予定。

● これまでの活動を振り返り、再度 Biz 研の目指すべきベクトルを再定義し、茶話会企画を拡充する。

2023 年のテーマは、「アクセシビリティ」、「環境と出版」、「NFT と著作権」、「教育に必要な画像／映像コンテンツの権利処理」、「民間におけるデータの権利処理」など、JEPA 会員社が必要な IT や DX に関する新しい技術、欧米で流行っているネタを検討した。テーマには、JEPA 会員社に利益があるネタを展開していきたい。1 月の Biz 研では、新しいベクトルを再定義するためにディスカッションを実施した。

➢ AI を利用した新コンテンツの創造

- ✓ ChatGPT がブームで、Biz 研でも英語コンテンツ（コスモピアの事例）の制作補助がどこまでできるかを茶話会で実施し、大盛況だった。
- ✓ 最近では Adobe にも AI 機能が搭載。
- ✓ AI で楽曲を学習させて作曲部品を提供するサービスがある。音楽家：JAZZ グループで得意分野を音楽ソフト上で分担して作曲し、DB 化で販売。学習データは、自分たちが過去作ってきた楽曲を利用。新音楽制作工房では、音楽ソフト OMax を使って生成した楽曲をアニメーションや CM、ファッションショーなどに提供。OMax はディープラーニングとプロンプターで楽曲を生成するソフトウェアで、作曲、演奏、サンプリング、打ち込みなどをせずに楽曲を生成することが可能。生成 AI がらみで、テーマとして出版社にとっての新ビジネスとして朗報を出せるか。米国に勝つために、日本独自で何かができないか。特に、米国では、著作権問題として訴訟が起きているが、日本ではどうか。働き方、雇用問題として、生成 AI で工数（コスト）を下げ、売り上げを上げる、など、すぐに行えることがあるのではないか。
- ✓ 秋田書店：2023 年 11 月 22 日発売の「週刊少年チャンピオン」52 号は AI×ヒトによる「ブラック・ジャック」完全新作読み切りを表紙＆巻頭カラーで掲載した。開発した裏話を茶話会で披露するのはどうか。裏話として、生成 AI という表の話と、出版社が実際に利用してビジネスしている話を

聞きたい。

- ✓ AIdeaLab 社は、AI でフォントを自動生成する技術を開発。
- ✓ AI 資格：何が AI 技術なのか。生成 AI のプロンプトエンジニアなど、資格取得のビジネスを JEPA でやるか。
- ✓ AI は文章も書けるため、出版社としては、AI でないという保証をどうするかが課題となる。
- AI 需要予測
 - ✓ 需要予測、電子書籍についてはいいけど。紙はより精細な需要予測が必要である。企画段階での需要予測は必要か。編集部と営業部での相違がある。取次では、履歴（市場）で判断される（〇〇地方の〇〇書店で売れたとか）。
 - ✓ 米国ではイングラムが、需要予測をやっている。返本数を減らす。オンデマンドをかませることで対応。トラックの数を減らす。労働法が変わってトラックの運転手の手当をアップ⇒運用コストがアップする。AI 予測でどうにかなるか。
 - ✓ AMAZON では、どう箱に入れるか、どういう詰め方をすればたくさん詰められるか。段ボールをロールから自動生成。配達順と入れ方を AI？（コンピュータ）にやらせている。
- アクセシビリティ
 - ✓ 政府のサイトでは、アクセシビリティ対応が重要（必須）となっている。出版技術を持っている会社は、視覚障害者を取り組んだ場合に、実際に使ってもらって評価してもらうことを実施している。視覚障害者がインテリジェントな仕事をしてもらおうと喜ばれる。
 - ✓ 過去 JEPA が取り組んできたセミナーネタや、実証実験ネタなどを再度 JEPA から配信。過去にやってきた技術について、ほとんどの人が知らない。JEPA のビジ研の中に〇〇ペディアみたいに、いままでやってきたことを、語る頁を作るのはどうか。
 - ✓ オーディオブックの時代が来たといっても、海外と比べて、まだ少ない。老舗のオトバンクだけでなく、新しい会社も出始めている。
 - ✓ E-Pub チェッカーはアクセシビリティ対応しているのか。2025 年 4 月～、欧州ではアクセシビリティ対応しないと出版できなくなる。
 - ✓ ダイアログインザダークという、目の見えない状況を 90 分間疑似体験することができる。JEPA で企画として、行くのはどうか (<https://did.dialogue.or.jp/>)
- ビジ研への参加メリット
 - ✓ ビジ研に入るメリットは、参加報酬型、茶話会のクローズドミーティング。JEPA の会員社外でも来れるのが良い。期待感として、ビジ研に行けば情報が得られるとすればよいか。
 - ✓ よろず相談屋、JEPA 技術展をオフライン（対面）で復活。ただしアフターコロナのこともあるため、オンライン、オフライン ハイブリッド開催もあり。

以上

レファレンス委員会 (前年度活動報告と本年度活動計画)

委員長 永田健児

1 2023 年度活動報告

● 委員会

委員会ミーティングは隔月 (原則奇数月) 開催しました。

2023 年 1 月定例 1 月 12 日にオンライン (zoom) で開催。

2023 年 3 月定例 3 月 2 日にオンライン (zoom) で開催。

2023 年 5 月定例 5 月 12 日にオンライン (zoom) で開催。

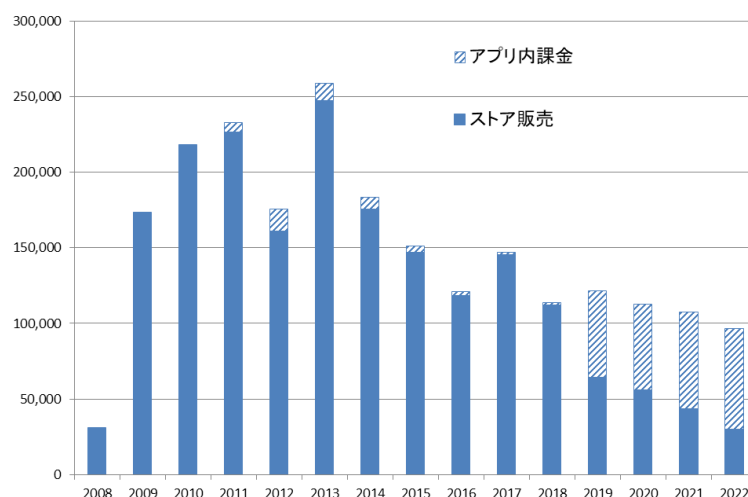
2023 年 7 月定例 7 月 6 日にオンライン (zoom) で開催。

2023 年 9 月定例 9 月 7 日にオンライン (zoom) で開催。

2023 年 11 月定例 11 月 2 日にオンライン (zoom) で開催。

● 辞書アプリの年別ダウンロード実数推移

10 月 27 日に JEPA ホームページで調査結果を公開しました。2018 年にスタートし、今年度で 6 回目となります。 <https://www.jepa.or.jp/pressrelease/20231027/>



2 2024 年度活動計画

● 情報共有と意見交換

デジタル辞書のビジネスモデル、デジタル辞書や辞書編集に関連する新技術やノウハウ、デジュール標準やユーザビリティへの対応等について、情報共有と意見交換を進めます。

● デジタル辞書に関する調査と統計資料の公開

個人ユーザ向けの「辞書アプリの年別ダウンロード実数推移」について、調査を継続します。

これとは別に、教育機関向けの「辞書アプリ/サービスのライセンス販売数推移」についても、調査を実施します (2 月 1 日公開済)。

3 委員会メンバー (氏名五十音順)

石塚 直子	三省堂	坂倉 基	小学館	永田 健児	デジタルアシスト
片岡 正弘	特別個人会員	清水 隆	JEPA 事務局	松本 千晶	研究社
北村 優太	三省堂	田沢 あかね	Gakken	吉田 伊公子	旺文社
木村 一彦	大修館書店				

以上

電子図書館委員会活動報告および事業計画案

電子図書館委員会委員長 三瓶 徹

1. 委員構成 (50 音順)

天谷幹夫	パピレス	岡山 将也	日立コンサルティング
金原 俊	医学書院	佐々木真之	Net Time Japan
佐野 悠介	コスモピア	渋下 恵	翔泳社
鈴木 秀生	学研HD	中山 正樹	JEPA フェロー
堀 鉄彦	個人会員	柳 明生	イースト
山岡 功	大日本印刷	松田 真美	医中誌
清水 隆	事務局長	三瓶 徹	JEPA 顧問
塩田幸雄	電子図書館委員会特別委員		

2. 2023 年度 (2023 年 1 月～12 月) 活動報告

- (1) 定例会を 11 回実施 (1/12、2/9、3/9、4/13、5/11、6/8、7/13、9/12、10/12、11/9、12/14) 12 月を除き zoom 開催とした。
- (2) 5 月 16 日 産業総合研究所柏センター AI サーバー見学
- (3) 図書館総合展 10 月 24 日、25 日のポスターセッションに出展しました。
<https://www.libraryfair.jp/poster/2023/136>
- (4) JEPA 電子図書館委員会サイトを更新しました。
<https://www.jepa.or.jp/jepa/commitee/toshokan/>

3. 2024 年度 (2024 年 1 月～12 月) 活動計画

- (1) 小中学校を対象とした学校デジタル図書館の推進
当面は、学識経験者、サービス各社、児童書出版社などと、文科省で委員会をスタートさせることを目標にする。
 - 離島や山村の小さな学校の子どもに、どのようにしたら必要十分な本を届けられるか
 - それが学校デジタル図書館サービスだとすれば、持続可能なサービスにするには、必要十分な量の本
費用は地方でも負担できる
出版社に利益が還元され、著者が新しい本が作れるサイクルになっている
 - 運営は中立的で安定した公共セクターであることが望まれるが、裏方やシステム、選書などは民間が担当するのも可能かその場で、国と民間が合同で、課題解決ができないか検討してみたい。
- (2) 電子図書館をテーマにしたセミナー・見学会の実施
- (3) その他、目的達成に必要なこと
- (4) 委員会のへの参加を検討されている方は、下記をご覧ください。
<https://www.jepa.or.jp/jepa/commitee/join/>

以上

決 算 報 告 書

(第 14 期)

自 令和 5 年 1 月 1 日
至 令和 5 年 12 月 31 日

一般社団法人日本電子出版協会

貸 借 対 照 表

令和 5 年 12 月 31 日現在 (決算)

法人名：一般社団法人日本電子出版協会

事業名：事業全体

(単位： 円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
流 動 資 産			
現 金 預 金	8,544,545	8,924,409	△379,864
現 金	18,745	45,945	△27,200
普 通 預 金 / 文 化 産 業	3,574,727	2,994,661	580,066
普 通 預 金 / み ず ほ	2,566,392	4,904,906	△2,338,514
普 通 預 金 / U F J	2,384,681	978,897	1,405,784
流 動 資 産 合 計	8,544,545	8,924,409	△379,864
固 定 資 産			
そ の 他 固 定 資 産			
什 器 備 品	3	3	
電 話 加 入 権	45,800	45,800	
そ の 他 固 定 資 産 合 計	45,803	45,803	0
固 定 資 産 合 計	45,803	45,803	0
資 産 合 計	8,590,348	8,970,212	△379,864
II 負 債 の 部			
流 動 負 債			
前 受 会 費	1,140,000	2,080,000	△940,000
預 り 金	376,893	384,829	△7,936
流 動 負 債 合 計	1,516,893	2,464,829	△947,936
負 債 合 計	1,516,893	2,464,829	△947,936
III 正 味 財 産 の 部			
一 般 正 味 財 産	7,073,455	6,505,383	568,072
正 味 財 産 合 計	7,073,455	6,505,383	568,072
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	8,590,348	8,970,212	△379,864

収 支 計 算 書

令和 5年 1月 1日から令和 5年12月31日 (決算) まで

法人名：一般社団法人日本電子出版協会

事業名：事業全体

(単位： 円)

科 目	予 算	当月発生	決 算 額	予算残高	残存率
I 事業活動収支の部					
事業活動収入					
会費収入	10,900,000	0	10,657,000	243,000	2.2
会費収入	10,900,000		10,657,000	243,000	2.2
雑収入	0	0	3,413	▲3,413	
受取利息収入			88	▲88	
雑収入			3,325	▲3,325	
事業活動収入計	10,900,000	0	10,660,413	239,587	2.2
事業活動支出					
事業費支出	2,500,000	433,576	2,005,289	494,711	19.8
理事會費	100,000			100,000	100.0
総務委員會費	100,000			100,000	100.0
定例会運営委員會費	250,000	22,274	199,644	50,356	20.1
広報委員會費	1,000,000	186,822	1,002,894	▲2,894	▲0.3
著作権委員會費	300,000		321,603	▲21,603	▲7.2
ビジネス研究委員會費	150,000	75,000	144,000	6,000	4.0
電子図書館委員會費	150,000	27,480	95,148	54,852	36.6
プラットフォーム研究委員會費	300,000	122,000	242,000	58,000	19.3
レファレンス研究委員會費	150,000			150,000	100.0
管理費支出	8,290,000	755,508	8,087,052	202,948	2.4
弁護士報酬	660,000	55,000	660,000	0	0.0
會計士等報酬	510,000	198,000	540,100	▲30,100	▲5.9
事務委託費	4,800,000	400,000	4,800,000	0	0.0
會議費	50,000		97,138	▲47,138	▲94.3
旅費交通費	150,000	9,072	114,436	35,564	23.7
通信費	300,000	3,208	443,136	▲143,136	▲47.7
運賃			62,178	▲62,178	
消耗品費	150,000	1,831	34,613	115,387	76.9
新聞図書費	100,000			100,000	100.0
水道光熱費	100,000	2,297	53,067	46,933	46.9
賃借料	1,200,000	82,000	1,152,900	47,100	3.9
保険料	20,000		21,120	▲1,120	▲5.6
租税公課	150,000		81,732	68,268	45.5
雑費	100,000	4,100	26,632	73,368	73.4
事業活動支出計	10,790,000	1,189,084	10,092,341	697,659	6.5
事業活動収支差額	110,000	▲1,189,084	568,072	▲458,072	▲416.4
II 投資活動収支の部					
投資活動収支差額	0	0	0	0	
III 財務活動収支の部					
財務活動収支差額	0	0	0	0	
IV 予備費支出					
当期収支差額	110,000	▲1,189,084	568,072	▲458,072	▲416.4
前期繰越収支差額	6,459,584	0	6,459,584	0	0.0
次期繰越収支差額	6,569,584	▲1,189,084	7,027,656	▲458,072	▲7.0

正味財産増減計算書

令和 5年 1月 1日から令和 5年12月31日（決算）まで

法人名：一般社団法人日本電子出版協会
事業名：事業全体

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
經常増減の部			
經常収益			
受取会費	10,657,000	11,397,000	△740,000
会費収入	10,657,000	11,342,000	△685,000
セミナー会費収入		55,000	△55,000
雑収益	3,413	7,236	△3,823
受取利息	88	85	3
雑収益計	3,325	7,151	△3,826
經常収益計	10,660,413	11,404,236	△743,823
經常費用			
事業費	2,005,289	2,052,690	△47,401
定例会運営委員会費	199,644	259,418	△59,774
広報委員会費	1,002,894	1,078,403	△75,509
著作権委員会費	321,603	265,918	55,685
ビジネス研究委員会費	144,000	59,151	84,849
電子図書館委員会費	95,148	147,510	△52,362
プラットフォーム研究委員会費	242,000	242,290	△290
管理費	8,087,052	7,647,591	439,461
弁護士報酬	660,000	660,000	
会計士等報酬	540,100	506,000	34,100
事務委託費	4,800,000	4,800,000	
会議費	97,138		97,138
旅費交通費	114,436	93,081	21,355
通信費	443,136	301,712	141,424
運賃	62,178		62,178
消耗品費	34,613	51,722	△17,109
光熱水料費	53,067	54,805	△1,738
賃借料	1,152,900	1,082,400	70,500
保険料	21,120	11,000	10,120
租税公課	81,732	64,100	17,632
雑費	26,632	22,771	3,861
經常費用計	10,092,341	9,700,281	392,060
評価損益等調整前当期經常増減額	568,072	1,703,955	△1,135,883
評価損益等計	0	0	0
当期經常増減額	568,072	1,703,955	△1,135,883
經常外増減の部			
經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	568,072	1,703,955	△1,135,883
一般正味財産期首残高	6,505,383	4,801,428	1,703,955
一般正味財産期末残高	7,073,455	6,505,383	568,072
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	7,073,455	6,505,383	568,072

財務諸表に対する注記

法人名：一般社団法人日本電子出版協会
事業名：事業全体

1. 重要な会計方針

(1) 会計方針

1. 「公益法人会計基準」（平成20年12月1日 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定率法によっている。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	0	0	0	0
特定資産		0	0	0
寄付受入預金	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
寄付受入預金	0	(0)	(0)	(0)
合 計	0	(0)	(0)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品			
コピー機	784,875	784,874	1
パソコン (中古)	20,985	20,984	1
空気清浄機 (中古)	10,815	10,814	1
合 計	816,675	816,672	3

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の 名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
寄付金			0	0		
E PUB支援寄付金	不特定多数	0	0	0	0	指定正味財産
合 計		0	0	0	0	

財務諸表に対する注記

法人名：一般社団法人日本電子出版協会
事業名：事業全体

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。
(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除額	0
合 計	0

7. その他

(1) その他

【資料2 別紙】

監査報告書

私たちは、一般社団法人日本電子出版協会の令和5年1月1日から令和5年12月31日に至る第14回事業年度、旧日本電子出版協会から通算して第38事業年度における会務の執行並びに同年度の一般会計につき監査を実施した。

監査の結果、会務の執行は当協会の規約に従い総会並びに役員会の決議に基づき誠実に行われており、また上記の一般会計はいずれも適正に処理されており、各決算報告書は協会の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認める。

令和6年2月1日

監事 齊藤 真木



監事 山下 浩



2024年度予算案

【資料 3】

勘定科目	2024年度予算(案)	2023年度決算(案)	2023年度予算	2022年度決算
会費収入	9,400,000	10,657,000	10,900,000	11,342,000
会費収入合計	9,400,000	10,657,000	10,900,000	11,342,000
受取利息		88		85
雑収入		3,413		7,151
雑収入合計		3,325		7,236
当月収入合計(A)	9,400,000	10,660,325	10,900,000	11,349,236
理事会			100,000	
総務委員会	400,000		100,000	
定例会運営委員会	250,000	199,644	250,000	259,418
広報委員会	1,100,000	1,002,894	1,000,000	1,078,403
著作権委員会	300,000	321,603	300,000	210,918
ビジネス研究委員会	150,000	144,000	150,000	59,151
レファレンス研究委員会	150,000		150,000	
電子図書館委員会	150,000	95,148	150,000	147,510
プラットフォーム研究委員会	250,000	242,000	300,000	242,290
業務委託				
事業費合計	2,750,000	2,005,289	2,500,000	1,997,690
弁護士顧問料	660,000	660,000	660,000	660,000
公認会計士費	510,000	540,100	510,000	506,000
事務局費	3,600,000	4,800,000	4,800,000	4,800,000
会議費	200,000	97,138	50,000	
旅費交通費	150,000	114,436	150,000	93,081
通信費	240,000	443,136	300,000	301,712
運賃		62,178		
消耗品費	200,000	34,613	150,000	51,722
新聞図書費	50,000		100,000	
光熱水道費	50,000	53,067	100,000	54,805
賃借料	739,000	1,152,900	1,200,000	1,082,400
保険料	20,000	21,120	20,000	11,000
租税公課	150,000	81,732	150,000	64,100
雑費	80,000	26,632	100,000	22,771
管理費 合計	6,649,000	8,087,052	8,290,000	7,647,591
事業費・管理費 合計	9,399,000	10,092,341	10,790,000	9,645,281
その他収入合計				
当期収支差額	1,000	568,072	110,000	1,703,955
前期繰越収支差額	7,027,656	6,459,584	6,459,584	4,755,629
次期繰越収支差額	7,028,656	7,027,656	6,569,584	6,459,584

日本電子出版協会 2024 年度

【資料 4】

理事・監事案

理事	叶 清 露	(株)アスク
	下 川 和 男	イースト(株)
	照 井 哲 哉	(株)イーブックイニシアティブジャパン
	金 原 俊	(株)医学書院
	松 田 真 美	NPO 医学中央雑誌刊行会
	森 川 裕 美	(株)岩波書店
	福 浦 一 広	(株)インプレスHD
	小 関 基 宏	(株)NHK出版
	生 駒 大 壱	(株)旺文社
	関 戸 雅 男	(株)研究社
	* 佐 野 悠 介	コスモピア(株)
	前 田 俊 秀	(株)三修社/ブレイン
	俣 塚 亮	(株)三省堂
	田 岡 孝 紀	(株)翔泳社
	田 中 敏 隆	(株)小学館
	柴 田 静 也	(株)新潮社
	平 岡 正 旨	大日本印刷(株)
	永 田 健 児	(株)デジタルアシスト
	田 丸 健 三 郎	日本マイクロソフト(株)
	萩 原 誠	萩原印刷(株)
	天 谷 幹 夫	(株)パピレス
	岡 山 将 也	(株)日立コンサルティング
	* 鷹 野 凌	NPO法人Hon.jp
黒 川 弘 一	光村図書出版(株)	
新 名 新	(株)メディアドゥ	
太 田 智 徳	(株)ユニフォトプレスインターナショナル	
監事	斉 藤 真 木	(株)じほう
	山 下 浩	日外アソシエーツ(株)

* : 新任

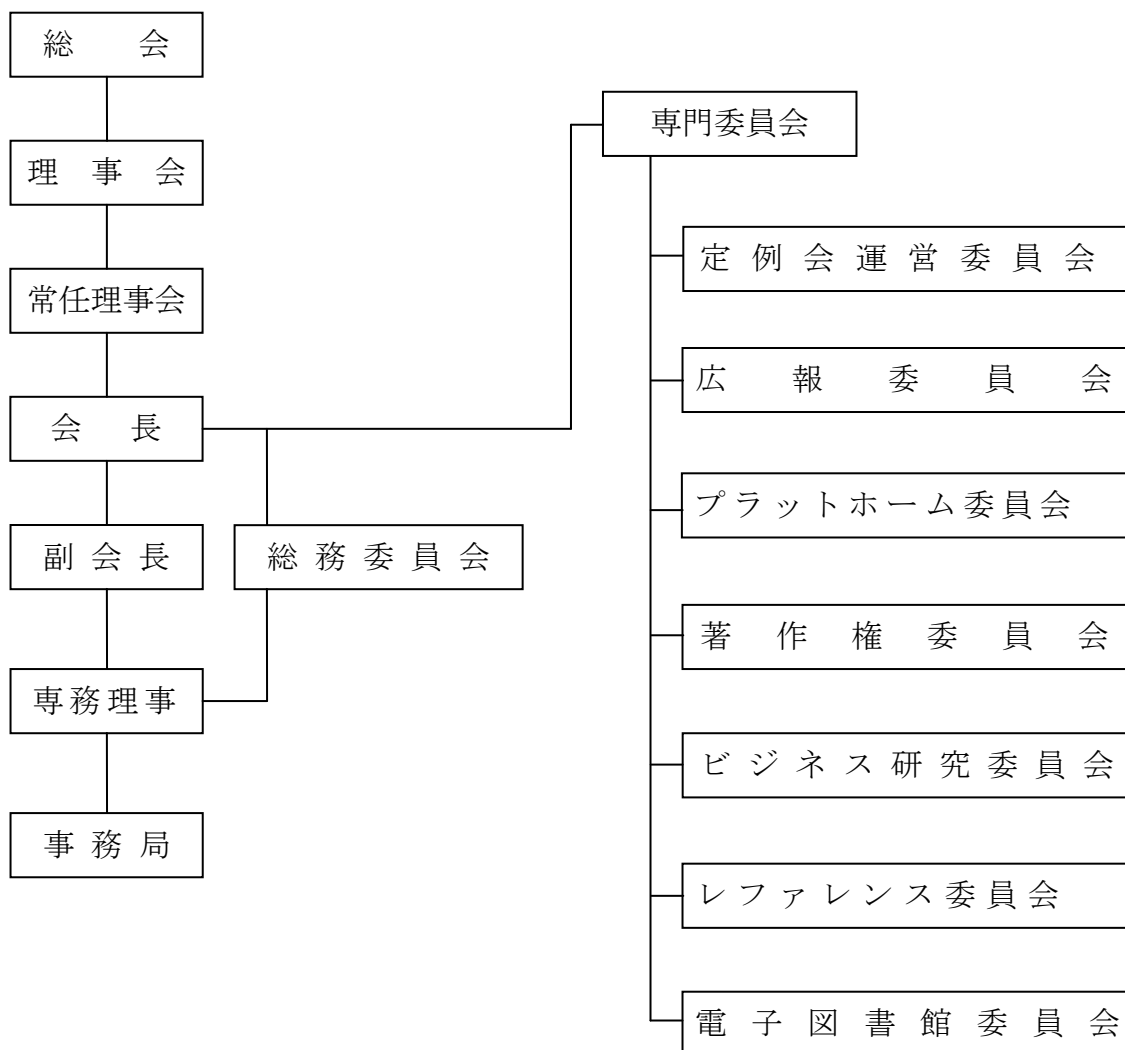
特別個人会員

顧問	三 瓶 徹	元事務局長
	梅 津 幸 一	元副会長
	村 田 真	JEPA技術主任(CTO)
	小 林 龍 生	JEPAフェロー
	中 山 正 樹	JEPAフェロー
	神藤利章	広報委員会
	井野口正之	定例会運営委員会
	神宮寺信也	広報委員会
	堀 鉄彦	電子図書館委員会、著作権委員会
	片岡 正弘	レファレンス委員会

2024年 JEPA 組織図

【資料 5】

専門委員会内には、委員長の方針のもとで様々な分科会や勉強会が作られることがあります。



2024 年度 JEPA 委員会委員長の委嘱

一般社団法人 日本電子出版協会 会長 松田真美

総務委員会

委員長 天谷 幹夫 (パピレス 取締役会長)

定例会運営委員会

委員長 古橋 明子 (旺文社)

広報委員会

委員長 生駒 大壺 (旺文社 代表取締役会長)

プラットフォーム研究委員会

委員長 下川 和男 (イースト 相談役)

著作権委員会

委員長 清水 隆 (JEPA 事務局長)

ビジネス研究委員会

委員長 岡山 将也 (日立コンサルティング シニアマネージャー)

レファレンス委員会

委員長 永田 健児 (デジタルアシスト 代表取締役社長)

電子図書館委員会

委員長 三瓶 徹 (JEPA 顧問)

JEPA会員社

(2024年2月1日現在:100社)

アイドック株式会社
一般社団法人 ICT CONNECT 21
株式会社明石書店
株式会社ACCESS
亜細亜印刷株式会社
株式会社アスク
株式会社アトラス
アドビ株式会社
アールジービー株式会社
株式会社医学書院
医学中央雑誌刊行会
医書ジェーピー株式会社
株式会社イワタ
株式会社岩波書店
株式会社インフォシティ
株式会社インプレスホールディングス
イースト株式会社
株式会社イーブック イニシアティブ ジャパン
株式会社エイアールディー
合同会社 英徳社
SBクリエイティブ株式会社
株式会社エスペラントシステム
株式会社NHK出版
エヌ・ティ・ティ・ソルマーレ株式会社
株式会社旺文社
O2O Book Biz株式会社
株式会社KADOKAWA
有限会社カネバン
株式会社カンゼン
株式会社学研ホールディングス
株式会社紀伊國屋書店
株式会社技術評論社
株式会社クリーク・アンド・リバー社
株式会社グラベルロード
株式会社研究社
株式会社KPSプロダクト
株式会社光和コンピューター
コスモピア株式会社
有限会社サイパック
株式会社三修社/株式会社ブレイン
株式会社三省堂
三美印刷株式会社
株式会社三陽社
三和書籍有限会社
株式会社 春陽堂書店
株式会社翔泳社
株式会社小学館
株式会社新興出版社啓林館
株式会社新潮社
株式会社JTBパブリッシング

実教出版株式会社
株式会社じほう
株式会社自由国民社
株式会社ジークス
株式会社精興社
株式会社誠文堂新光社
株式会社世界文化ホールディングス
株式会社セットアップ
株式会社税務研究会
全国大学生協同組合連合会
株式会社想隆社
株式会社大修館書店
ダイナコムウェア株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社デジタルアシスト
株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン
デジタルタグポート株式会社
株式会社とうこう・あい
株式会社南江堂
日外アソシエーツ株式会社
日経印刷株式会社
株式会社日経BP
日販テクシード株式会社
株式会社日本教文社
一般社団法人 日本1EdTech協会(日本IMS協会)
一般社団法人 日本オンライン教育産業協会(JOTEA)
一般社団法人 日本オープンオンライン教育推進協議会
日本マイクロソフト株式会社
株式会社 Net Time Japan
株式会社ネットラーニング
(社)農山漁村文化協会
ハイテクノロジーエクスプロラー株式会社
萩原印刷株式会社
株式会社ハースト婦人画報社
株式会社パピレス
株式会社日立コンサルティング
株式会社ブックスキャン
株式会社ベネッセコーポレーション
NPO法人HON.jp
株式会社ポブラ社
株式会社マイトベータサービス
有限会社マーリンクレイン
光村図書出版
株式会社明友社
メディアチューンズ株式会社
株式会社メディアドゥ
株式会社物書堂
株式会社有斐閣
株式会社ユニフォトプレスインターナショナル
株式会社リイド社